

ATC 施設利用・共同開発研究 成果報告書

国立天文台先端技術センター センター長 野 口 卓 殿

下記のとおり施設利用の成果を報告します。

ふりがな： のざわ さとし 代表者氏名： 野澤 恵	③所属機関，部局： 茨城大学理学部
研究課題名：シンチレーション観測によるシーイングの定量化	
利用期間：H29 年 4 月 1 日 ～ H30 年 3 月 31 日	
利用者リスト 山本大二郎、野澤 恵（茨城大学）	
研究開発の成果（ATC 施設利用との関連を具体的に記述してください。） 本申請において開発を行う予定であったが、様々な場所や継続的な観測や解析作業を中心に行い、開発までたどり着けなかった。しかし、 ・天文学会 2017 年度秋季年会 V228a「太陽シンチレーションモニタによる高度に依存した大気擾乱推定及びシーイングの定量化」山本大二郎ら 2017/9 ・天文学に関する技術シンポ 2017「太陽シンチレーション観測の妥当性の検証及びシーイングの定量化」山本大二郎ら 2017/12 ・「補償光学研究開発のための情報交換会」「太陽光を用いたシーイング調査手法の開発」萩野正興ら 2018/3 ・茨城大学大学院修士論文「太陽観測における茨城 SHABAR の妥当性検証及びシーイングの定量化」山本大二郎 などの発表を行った。これにより初期的成果が得られ、実際のシーイング観測のための機器開発の基本的な性能要求やその設計への材料となり、次年度以降の具体的な開発に弾みがついた。	
施設利用が謝辞等に記された学術論文など（資料を添付してください。） 学術論文ではないが上記の資料は以下のリンクとなる http://www.asj.or.jp/nenkai/archive/2017b/pdf/V228a.pdf http://open-info.nao.ac.jp/engipromo/draftparts_2017/gk_13_Yamamoto_Daijiro.pdf https://drive.google.com/file/d/1kgWsgzaH2twOAJc-z2xIVnpQzTsSD0bV/view	
先端技術センターの利用設備・実験室等の利用した物品を具体的に記入してください。マシンショップへ依頼したリスト・利用した測定器・CAD 等について記入してください。）	
先端技術センターの施設への要望等ありましたら、記入してください。 研究会等で先端技術センターの皆様によくの技術的な助言を頂き、研究の初期成果を得られたことを感謝します。 引き続き来年度も製作などに向け申請するのでぜひともお願いしたい。	